

学校点描

5月8日から新型コロナ感染症が第5類に引き下げられました。嬉しさと油断できない思いとが交差します。
《M中学校》
NO.3 R5. 5. 10
担当：校長

運動会のスローガンは『Over the Top～仲間と共に勝利に導け！～』でした。考えてくれたのは、T・KさんとA・Sさんです。またプログラムの表紙には、N・Tさんのイラストが選ばれ、運動会の雰囲気づくりに貢献してくれました。

4月29日（土）は予定通りの日程で、運動会を開催することができました。応援合戦では、このわずかな日数の中で、1.2年生をまとめあげた3年生の力に感銘を受けました。

ある朝、国道沿いを車で通勤している途中、U杉あたりで、中学生が止まってくれた車にお礼のお辞儀をしています。学校とは違う姿を見た気持ちでした。学校に到着して、外に立っていると、スクールバスから生徒たちが降りてきます。生徒の横断のために、通行中の車が停車してくれました。生徒の中には、振り向いてお辞儀する生徒がここにもいます。見えない所で知らない姿があるものです。

本当の顔

バスの乗り方で、注意を受けることがありました。今はもうバスに乗ることが当たり前になっていますが、以前は小学生の他にも、地域の方もスクールバスに乗ることがありましたので、いろいろな世代との交流の中で自然と思いやりの心がバスの中の空間で育っていたように思います。

本当の自分は何なのか。

教室で過ごす自分、
家でくつろいでいる自



分、運動会の練習で先輩から指導を受けるときの自分、仲間と看板づくりをしているときの自分、いつもと同じ自分がそこにはいないかもしれません。

特に中学生になると、いろんな場面で違う自分を出していることを否定し、そのことに悩んだり、苦しんだりすることが多いものです。

それらは、演技をしたり、無理をしている自分なのだろうか。

人は空気を読め (KY) とよく言いますが、空気を読んでいる自分は自分ではないのだろうか、と。

あるお母さんが教えてくれたエピソード。

うちの中学生になるお姉ちゃん。どうでもいいことは良くしゃべるのに、肝心なことはなかなか言わないので。この前、弟が足の手術をすることになりました。入院の当日、いつも通り「行ってきます。」と、家を出るお姉ちゃん。これから手術を受ける弟に何の言葉もかけてあげないなんて冷たすぎる、母としてとても悲しい気持ちになりました。出かける支度をしていると「お母さん、DS開いたら、お姉ちゃんからの手紙が入ってたよ。」と叫ぶ息子の声が聞こえました。弟が病院にDSを持っていくと思い、そっと手紙を挟んだらしい。そこには、「手術がんばってね。そばにいてあげられないけど応援してるよ。（お姉ちゃんより）」と書いてありました。

母親も見たことがない、娘のやさしい面を見た思いでした。

わたしは、子どもが、いろいろな顔をもつことがむしろ当たり前だと思います。よく人は、“個性的であれ”というけれど、個性とは、ひとつではなく、いろいろな顔をのぞかせる、そのすべてが自分の個性なのです。家族の前での顔、仲の良い友達と話すときの顔、兄弟姉妹の前での顔・・・。

特に、思春期の中学生の顔は、いろいろです。ひとつにすることで悩むことはないのです。

運動会の準備期間、これまでの学校生活の中の顔とは別の顔を見せる生徒がいました。いろんな顔を遠慮なく出せる学校にしていきたいものです。



眼下を見下ろすと、笑い声を出しながら中庭のごみ拾いをする中学生たちがいます。

きりとりせん

ご意見・ご感想をお願いします。